

2022年2月度の観察記録

カテゴリ : 2022年

_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2022-2-13

2022年2月度の観察記録です。

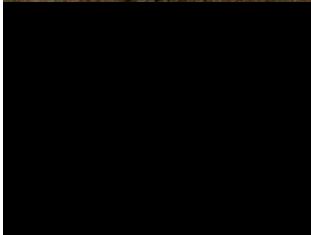
```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2022年2月13日(日) 9:30~12:00 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子
天気: 曇り 愛知県のまん延防止等重点措置は3月6日までの延期が決まり、今月は自然観察会を中止することとなりました、以下を2022年2月の記録として残します。 冬を越す森の生きものの様子を確認しながら進みました。例年2月の観察会ではオタマジャクシ池でニホンアカガエルの卵を観察してきましたが、今年はまだ一つも卵塊が見当たりませんでした。その周辺の土手では、越冬中のキタキチョウが2頭とオオカマキリの卵鞘が見つかりました。

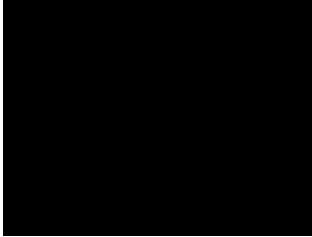




キタキチョウ オオカマキリの卵鞘 少し進んで中道の脇にたまった落ち葉をかき分けていると
モリチャバネゴキブリが何頭も這い出してきました。そのそばにはヤマコウバシの木があり、茶色
く枯れたまま枝についている葉を試しに引っ張ってみました。強い力を入れても枝から離れない
ほどしっかりとついていました。

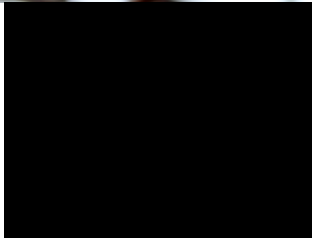


モリチャバネゴキブリ ヤマコウバシ 同行の大学生が道具を使って倒木をさばいてみると
、コガタスズメバチの越冬女王が出てきました。たまにネジレバネという昆虫に寄生されているメ
スが見つかるとのことでしたが、これは寄生されていませんでした。畑の脇のソシンロウバイは満
開でした。ロウバイは花の中心部が濃く色づくのに対し、こちらは花が内部まで黄色いことで見分
けるとのことでした。



コガタズメバチの女王バチ ソシンロウバイ 同じ畑の近くにあるサクラを見ると、先月は固い花芽だったものが少しふくらみ始めていました。またつどいの丘のコウバイは、つぼみがようやくほころび始めたところでした。ウメは例年の2月の観察会では開花を確認していて、咲いている花が一つもないというのは記憶にありません。



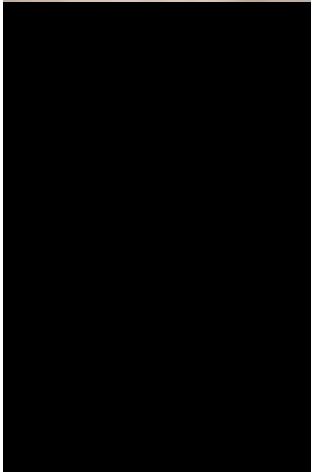


サクラのつぼみ コウバイのつぼみ 先ほどの大学生がシタ度トタテグモを見せてくれました。トタテグモは土の中にトンネル状の扉付きの巣を作り、獲物が近くを通りかかると穴の中に引き入れるという習性があるそうです。キシノウエトタテグモは環境省のレッドデータカテゴリでは準絶滅危惧、愛知県でも絶滅危惧種2類とされていますが、東山の森では見つけるのはそれほど難しくはないようです。この日はトンネルの中でたくさんの子グモと一緒にいるメスが確認できました。足元の落ち葉をかき分けると、ワカバグモが2頭出てきました。





キシノウエトタテグモ キシノウエトタテグモの子グモ ワカバグモ キラニン道路を上がりました。展望広場へ向かう途中で、成虫で越冬するホホジロアシナガゾウムシが見つかりました。木の枝にしがみついていた。

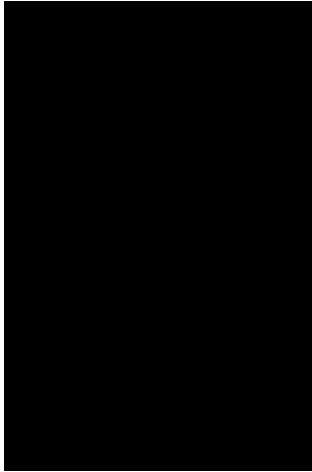


ホホジロアシナガゾウムシ 展望広場の近くでは、スダジイの木が見られました。特徴的な殻斗をつけたドングリもたくさん落ちていました。少し前にその周辺の常緑樹を調べていた時に見つかった木で、樹液がたくさん出ていました。



スダジイのドングリ スダジイの樹皮 スダジイの樹液 キラニン道路沿いにはクリの木もあり、
その樹皮には縦長の割れ目が目立ちました。

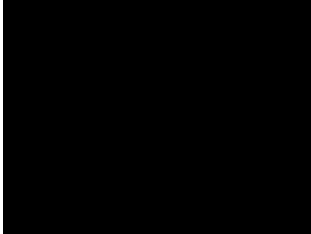




クリの樹皮 もう少し足を延ばして、これまでも2月の観察会でよく**詰めカギ**
アイのコロニーを見に行きました。毎年観察と記録を続けてきており、近年は元気がなくなってい
ます。辺りを覆いつくすササを刈ると、**小さな葉**ばかりが見つかりました。また**花**がたくさん咲い
ている場所もありましたが、どういわけかそこには葉が1枚もありませんでした。

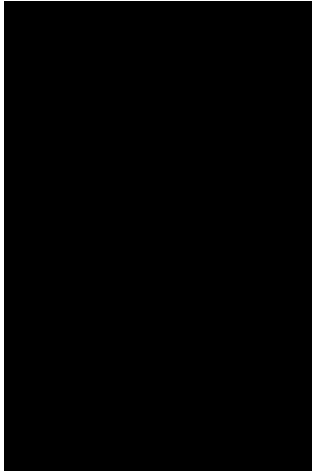


ササに覆われたヒメカンアオイのコロニー ヒメカンアオイの小さい葉 ヒメカンアオイの花
を見るために落ち葉をかき分けていると中サイズの**トビズムカデ**が出てきました。また**ワラジムシ**
の仲間も見つかりましたが、よく見るタイプの**ワラジムシ**と違ってその体には黒い光沢がありまし
た。



トビズムカデ ワラジムシの仲間 頭上の枝には**ムネアカハラビロカマキリ**の**卵鞘**がついていま
した。最近では毎月見つかるようになってしまいました。





ムネアカハラビロカマキリの卵鞘
しており、調査が進められています。ハンノキ湿地の調査のために設置されている装置が紹介されました。土中の水位を測定する装置でした。

今年度から東山の森の湿地を保全するプロジェクトが起動



水位測定装置 水位測定装置の表示
生えていました。どれも柄のないタイプでしたが、色や傘のサイズはそれぞれ違い、傘の裏のヒダ

その倒木が横なわっていて、3種類のキノコが

もあるものとなないものがありました。



倒木に生えたキノコa 倒木に生えたキノコb 倒木に生えたキノコc 足元には落ち葉が積もり、フカフカしていました。その落ち葉の間から**ジャノヒゲ**の濃い緑色がたくさん見えていました。また葉の一部が赤く色づいた**ピナンカズラ**を見ましたが、赤い部分の面積は葉の裏側の方が大きいことに気がきました。





ジャノヒゲ ビナンカズラ ビナンカズラの葉の裏側
れた明るいエリアを通りました。赤い実をつけたマンリョウがあちこちで見られました。ヤブニツ
ケイの葉を一枚採って匂いを嗅ぐとほんのりといい香りがしました。また林床を覆うフユイチゴは
わずかに実が残っていました。

シデコブシを見に行く途中でよく手入れさ





マンリョウ ヤブニッケイ フユイチゴ シデコブシは東海地方固有の湿地を好む植物です。これも環境省のレッドリストの準絶滅危惧、愛知県で絶滅危惧種2類とされています。花芽はフサフサの毛に覆われていて、スベスベとした手触りでした。周りを取り囲むハンノキを見上げると雄花がたくさん垂れ下がっていました。帰り道では赤い実のセンリョウを見ました。



シデコブシの花芽 ハンノキは花盛り センリョウ 北尾根を下りきったところのハクサンボクがなかなか大きくなれないという話が出ました。本来はもう少し樹高が高くなるはずだが、周囲のコナラなどの高木が邪魔をしているかもしれないとのことでした。続いて今年のシュンランがどんな状態か見に行きました。去年はこの時期にはもう花が咲いていましたが、この日はまだ小さいつぼみがようやく顔を出したところでした。最後に森の案内板に掲載されている写真を見ながら、くらしの森が整備されたばかりの頃を少し懐かしく思い出しました。



ハクサンボク シュンラン 森の案内板 この冬はすでに何度も雪が降り、例年にない寒さを実感してきました。この日はいつもの2月の観察会で見られているニホンアカガエルの卵をはじめ、ウメやミモザやシュンランの花などもまだ姿を見せていませんでした。最高気温が10度を割る日も珍しくなく、森の生きものも活動開始が遅くなっているようです。春の訪れが待たれます。

平和公園での観察項目：キタキチョウ、オオカマキリの卵鞘、モリチャバネゴキブリ、ヤマコウバシ、コガタズメバチの女王バチ、ソシンロウバイ、サクラのつぼみ、コウバイのつぼみ、キシノウエトタテグモ、ワカバグモ、甲虫の幼虫、ホホジロアシナガゾウムシ、スダジイのドングリ、スダジイの樹皮、

スダジイの樹液, クリの樹皮, ササに覆われたヒメカンアオイのコロニー, ヒメカンアオイの葉, ヒメカンアオイの花, トビズムカデ, ワラジムシの仲間, ムネアカハラビロカマキリの卵鞘, 水位測定装置, 倒木のキノコ, ジャノヒゲ, ピナンカズラ, マンリョウ, ヤブニッケイ, フユイチゴ, シデコブシの花芽, ハンノキ, センリョウ, ハクサンボク, シュンラン, 森の案内板